

平成25年度 市政執行方針



3月4日、平成25年第1回伊達市議会定例会の冒頭で、菊谷市長が「平成25年度市政執行方針」を所信表明しました。紙面の都合上、一部を抜粋しご紹介します。

はじめに

我が国においては、経済停滞の長期化や社会保障改革、TPP協定を巡る動き、さらには、消費税の増税など、今後の地方を取り巻く環境は、一段と厳しさを増すことが予想されます。

また、人口減少、少子・高齢化が急速に進み、雇用や消費の低迷といったさまざまな問題が、地域経済や私たちの暮らしにも直接大きな影響をおよぼしてまいります。

このような中、本市は市制施行40周年を迎え、その記念すべき節目の年に、総合体育館、観光物産館、「まなびの里公園」パークゴルフ場が、オープンしたところであります。

また、私は、財政健全化に向けて、さまざまな合理化や行政改革を積極的に推進してまいりました。

その結果、消防職員を除き、15名、約28パーセントの職員削減と約12億

6千万円の人件費の削減を図ったところであります。

一方で、市民参加条例の導入やパスポート関連サービスの実施など、市民の皆さまの利便性、満足度の向上にも努めてまいりました。

そして、長期的な視野から、多岐にわたる「種」を蒔き続けてきたところであります。

市長に就任してから14年の中で、その「種」がやっとな芽を出してきたことを顧みたと、感慨深い思いであるとともに、やがてこの芽が成長し、実を結ぶことを強く切望するものであります。

また、この伊達市が一步前進するためには、この「まち」の将来を見据え、多種多面に新たな「種」を蒔き、果敢に挑戦し続けなければなりません。そして、それが市長に求められる責務であるとともに、新たな飛躍へ繋がるものと、強く思うところであります。

さらに、私は、これまで一貫してこの「まち」が持つ潜在力は、この「まち」に住む人々の力にあると信じております。

そして、市民の「声」を反映することは、不変の真理であり、そのことを今後も、市政執行の基本として取り組んでまいります。

この伊達市も近年は、人口が減少し、より一層、高齢化が進んでまいります。

しかし、このような時だからこそ、怯むことなく、市民の皆さまが、夢と希望を持ち、不安を抱くことのない地域社会を構築していかなければなりません。

私たちが直面しているさまざまな問題は、それを乗り越えようとする者にだけ与えられる「試練」であります。

今、伊達市は、その試練を乗り越える「飛躍へのチャンス」のときです。

市民の皆さまと英知を結集し、将来にわたり、明るい未来を築き、次の世代へ安心のバトンを引き継ぐため、全身全霊、市政執行に取り組んでまいり所存であります。

市政へ臨む基本姿勢

平成25年度において、私が取り組む基本姿勢について申し上げます。

第一は、「未来を切り拓く産業基盤の確立」であります。

この「まち」が、さらに一步飛躍するためには、その核となる安定した産業基盤の確立こそが重要であります。

本市の基幹産業である第一次産業は、さまざまな関連産業との連携を通じて、地域経済に大きな役割を果たしております。

しかし、高齢化や後継者不足など、第一次産業を支える就業者は、年々減少傾向にあるとともに、農業においては、耕作放棄地が増大するなど、厳しい現状にあります。

一方で、新たな取り組みに向け、挑戦する担い手がいることも、事実であります。

私は、柱となる第一次産業の基盤強化は、本市の将来を見据えたとき、この地域がさらに飛躍する上で、欠くことのできない最も重要な課題であると考えております。

このため、消費者に信頼される安全・安心で質の高い、農水産物の生産・供給に努めるとともに、将来にわたって力強く安定的な産業基盤の確立に向け、より一層取り組んでまいります。

第二は、「観光価値を高める基盤づくり」であります。

昨年、総合体育館や観光物産館、「まなびの里公園」パークゴルフ場が、オープンしました。

いずれの施設も当初の予想を上回るご利用をいただき、しかも市民の

皆さまだけでなく、市外の皆さまにもご利用いただいております。

また、今年は、西胆振初となる人工芝を有した「まなびの里公園サッカー場がオープンするとともに、現在、整備を進めております室内プールも、いよいよ完成いたしました。

両施設は、既にオープンしている施設同様、市内外の皆さまから大きな期待を寄せられているところであります。

こうした施設などの充実は、交流人口の増加に繋がるものであり、この「まち」の新たな観光資源ではないかと考えております。

近年は、旅行ニーズの多様化とともに、旅行スタイルも従来の画一的な観光から、個々のニーズに合わせた観光へと変化しつつあります。

このため、伊達市の豊かな資源を有効に活用しながら、魅力ある観光振興に取り組むとともに、この「まち」が持つさまざまな資源を活かしながら、観光資源全体の価値を高める基盤づくりに努めてまいります。

第三は、「安心して住み続けられる地域社会の実現」であります。

誰もが住み慣れた地域で、安心して健康に暮らすためには、医療・福祉の充実はもとより、地域の皆さまが連携し、お互いが支え合うことができる地域社会を構築することが重要であると考えております。

このような中、子どもたちが健やかに育ち、安心して産み育てられる施設として、本年1月、民間事業者運営の市内3カ所目となる「子育て支援センターおひさま」が開設され、4月には「虹の橋保育園」がスタートいたします。

また、昨年9月、供用開始となりました、市営住宅駅前団地のシルバーハウジングに配置した生活援助員を活用し、地域で支え合うネットワークづくりに取り組んでいるところであります。

健康で、心豊かに安心して暮らすことは、誰もが願うことであります。が、少子・高齢化やライフスタイルの多様化など、社会環境は大きく変化しつつあります。

このため、社会情勢や社会的背景さらには、市民の皆さまが求めるさまざまなニーズを的確に見極めながら、共に支え合い、希望と生きがいを持ち、健康に暮らせる地域社会の実現に努めてまいります。

私は、常に、この「まち」の将来を見据えながら、伊達市の新たな価値を磨き上げ、さらに一歩前進するという強い気概を持って、果敢に挑戦してまいります。

予算編成の基本方針

本市の歳入については、景気が回復していないため、市税の伸びは見込めず、地方交付税においても、減額されると見込まれることから、財

政見通しは依然として不透明な状況が続いており、歳出についても、扶助費が年々増加傾向にあるとともに、公債償還費もピークを迎えることから、大幅に縮減することは難しいところであります。

このようなことから、本市の財政は、より一層厳しい状況が続いていきます。

平成25年度予算編成にあたりましては、国の動向を注視しながら、引き続き、事務・事業経費などの徹底した節減に努めてまいります。

また、産業基盤の確立を念頭に置きつつ、第六次総合計画と整合を図りながら財源の重点的な配分を行い、必要な予算を計上したところであります。臨時財政対策債を含めた市債の発行額については、予算編成基本方針どおり、元金償還額の範囲内としつつ、可能な限り抑制したところであります。

この結果、

一般会計	164億3千9万円
特別会計	108億5千630万円
水道事業会計	10億2千296万円
合計	283億 935万円

となり、前年度当初予算に比べて、5億495万円、1.8パーセントの減となったところであります。

おわりに

これまで経験したことのないさまざまな困難を乗り越えていくために

は、新しいことに挑戦していくという気概、そして諦めない強い意志が何より重要であります。

また、このような時だからこそ、「何が真に市民の皆さまのためになる選択なのか」を見極め、そして、この「まち」に暮らす我々ひとり一人が、ともに手を携えて、行動を積み重ねていくことが必要であります。

先人の偉大な労苦と先輩方の多大な努力により築いた礎を、さらに飛躍させ、未来へ引き継いでいく使命が、私には与えられています。

本年は、伊達開拓「ふるさと従兄弟（い〜とこ）スポーツ祭」が、本市で開催されます。

この機会に改めて、次代を担う子どもたちが、夢と希望に満ち溢れ、そして、この「まち」に誇りを持ち、ふるさとを思う強い意志と、人と人との「絆」を実感できるよう、市のまちづくりに全力で取り組んでまいります。

市民の皆さまに、今後とも一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

□おまわり

ご希望の方には、全文を掲載した「平成25年度市政執行方針」企画課企画調整係（市役所2階）でお渡しします。

また、詳しい内容は、市ホームページで公開しています。